

実施日	企画内容	担当教員		講座タイトル	講座概要
4月12日(金)	プログラム ガイダンス ----- HiSEP-Mirai 入門キックオフ セミナー	井上 直也 中島 啓光 (HiSEP担当教員) ----- 永澤 明 (埼玉大学名誉教授) ----- Dr. Eduardo de la Fuente Acosta (Departamento de Fisica, Universidad de Guadalajara, Jalisco, México)	全領域	入門セミナーガイダンス ----- 理学の面白さを知ろう ～最先端につながる自然科学とは～ ----- 『A Message to Univ. Students: Understanding the STEM as solver of social problems』	入門セミナーの狙い・受講に当たって ----- ○理学とは何か ○科学の考え方の変化 ○理学を学ぶ 素養としての科学と最先端につながる科学 ○理学の共通言語:単位 SI単位の改訂 ○理学はどこまで新しいか ○理学のトピックス ○理学を楽しむために ----- 大学での学びに先立ち、理工系人材の芽としての皆さんに向けて、メキシコ・グワダハラ大学のFuente先生にSTEM教育の意義を話していただきます。理系の知識のみならず、いろいろな問題解決に資する学びを認識し、さらにSTEAM教育に拡張し、グローバル視点で理系学生が専門教育のほかに学ぶべき教養を提示してもらいます。
5月17日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	井原 隆 さいたま市市議会議員 (東京大学大学院 理学系研究科 博士課程修了)	宇宙	『すばる望遠鏡を用いた 超新星観測 理系人材と社会』(仮題)	「すばる望遠鏡」は日本がハワイ島に所有する口径8.2mの世界最大級の望遠鏡です。本講演では、すばる望遠鏡のご紹介から、私が行っていた超新星の観測と、そこから得られたデータに基づいた宇宙膨張測定についてお話しします。また現在は研究現場を離れた私の目線から、理学部で培った論理的思考が他の分野でどのように活かせるか、についてもお伝えしようと思います。
5月31日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	笹田 知弘 (株式会社シンミドウ 代表取締役)	一般・社会	研究・探究活動に活かせる 起業家視点とは？	自ら会社を創業する起業家は、世の中の課題や問題の解決をするために起業するケースが多いです。この起業家を持つ視点は、研究・探究活動にも活かれます。この講座では、実際に会社を創業した起業家が、現実であった課題や問題をどのように解決したのか？という視点を、ケーススタディーで分かりやすくお伝えします。
7月5日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	田中信行 (埼玉大学物理学科 同窓会副会長 元気象庁職員 放送大学埼玉 学習センター客員教授)	物理	気象における物理学	一見、複雑に見える気象現象についても、力学や熱学、放射といった基礎的な物理現象の組み合わせで成り立っている。また天気予報という形で、気象が予測可能であることは、随所で物理法則が成立している証左でもある。本講義では、幾つかの特微的な気象現象を取り上げ、物理的考察を加え現象の本質に迫る。
7月19日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	川端 博子 (教育学部)	科学・社会	科学の目で見える衣服	被服学の概要をお話した後、これまでの私の研究内容を紹介します。学生の皆さんには学問の幅の広さを知って頂きたいと思います。
7月24日(水)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	埼玉大学理学部 担当教員	一般・社会	理学部HiSEP学生と 横浜情報科学専門学校専門課程 学生との交流会 (※理学部3号館2F 11番教室)	異なる分野を学ぶ学生との交流を通して、学部での学びの広さと深さを自ら発見する機会とする。
7月26日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	庄司 達也 (横浜市立大学)	一般・社会	芥川龍之介の 「直筆資料」をめぐる ～近代文学研究に於ける 「データ」ということ～	芥川龍之介は、文学館や資料館のみならず国内外のコレクターたちが、原稿、書簡と云った直筆資料や初版本などが求められている人気作家の1人です。そのため、資料情報も他の作家に比べよく整理されています。そのような状況を踏まえ、研究の「場」に於ける「直筆資料」をめぐる看過できないことについて、講じたいと考えています。
8月2日(金)	HiSEP-Mirai 入門セミナー	石川 俊 (石川建設工業株式会社 石川恒産株式会社 代表取締役)	一般・社会	福島の実状と課題/ 被災地からの声 ～津波・原発災害からの復興～	東日本大震災から13年5カ月。地震津波災害に加え、原子力災害が重なった複合災害の地「福島」の住民から、若い科学者の卵の皆さんへ メッセージ。大震災の経緯から、復旧・復興事業の進捗、13年が経過した現状、廃炉作業が進む原子力発電所の現在、地域の姿などをお伝えします。メディアが発信する情報だけではなく、被災者の声からフィールドワークの重要性と、科学に何が出来るかを考えてみましょう。